

11月5日 「酉の市」

11月になりました。2学期も後半に入ってきました。初めに、10月までに音読を合格した人の人数を発表します。

1つ合格した人は、131人、「種をまこう」まで合格した人は、87人でした。1学期の終わりには、152人と、82人でした。2学期の半分でこれだけの人が合格していますから、1学期よりも合格者は増えそうです。まだ校長室に来ていない人は、ぜひ、音読を聞かせてください。

さて、今朝、千束の町の様子がいつもと違いましたね。今日は、酉の市の「一の酉」の日です。酉の市は、11月の酉の日に行われます。この「酉の日」というのは、暦、今のカレンダーを「子丑寅卯・・・」という十二支で表したときに、酉にあたる日のことを言います。今年の11月のカレンダーでは、このようになっています。この酉の日に、酉の市が行なわれるので、今年は、「三の酉」まであります。年によっては、酉の日が2回しかない年もあり、その時は二の酉で終わりということになります。

この、酉の市ですが、いつから行われていたのか、調べてみました。

酉の市は、6年生の社会科の教科書にも載っている、神話の英雄「ヤマトタケルノミコト」が、11月の酉の日、戦いに勝ったお祝いに、熊手を鷲神社の松の木にかけたのが始まりと言われています。その後、いつから人がたくさん集まって賑わう酉の市になったのかは分からないのですが、江戸時代には、酉の市の日にたくさんの人が集まっていたという記録があります。そして、今の酉の



市がどれだけ賑わっているのか、みなさんがよく知っていますね。青いせんぞくんも、熊手を持っています。千束小学校の地域の人、この行事を大事にしているのが分かります。

ずっと昔から続いている行事を体験できるというのは、とても素敵なことです。昔の人、もっともっと昔の人が、この土地でどのような思いで暮らし、そして、酉の市にどんな思いで来ていたのか、考えるのも楽しいものです。

たくさんの人が集まる酉の市です。これだけ人が集まるのですから、江戸時代にも迷子の人はいたのかもしれませんが。みなさんも、まず、学校から帰るとき、周りをよく見て、安全に帰ってください。また、お家の人と酉の市に行くときには、迷子になったり、けがをしたりしないように、気を付けて楽しんでください。

